

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	基礎医学演習Ⅱ		学科名	作業療法学科	講師名	溝畑美香
時間数	30時間				実務経験の有無	作業療法士として精神科病院・高齢者総合福祉施設にて実務経験あり
学年・学期配当		1年次	2年次	3年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		精神障害に関する歴史を再学習し、実習で得た知識を活かしてより高度な作業療法介入が可能となる。臨床現場で活用できる知識、技術を習得する。				
授業全体の内容の概要		精神疾患や作業療法の歴史を学び、作業の特性を知り、作業療法計画を立案し介入することを学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		自身で立案した作業療法計画を臨床で通用することが可能となる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	1章 ひとと病い			
	2	講義	2章 精神の病い処遇の歴史と作業療法			
	3	講義	2章 精神の病い処遇の歴史と作業療法			
	4	講義	3章 作業を用いる療法の特性			
	5	講義	3章 作業を用いる療法の特性			
	6	講義	4章 作業療法の治療・支援構造と治療機序			
	7	講義	4章 作業療法の治療・支援構造と治療機序			
	8	講義	5章 作業療法の手順			
	9	講義	5章 作業療法の手順			
	10	講義	6章 作業療法の実践			
	11	講義	6章 作業療法の実践			
	12	講義	7章 主な精神認知機能の支障と作業療法			
	13	講義	7章 主な精神認知機能の支障と作業療法			
	14	講義	8章 精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法			
	15	講義	8章 精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		精神障害と作業療法 三輪書店				
評価方法		成績は、レポートの内容により判断する。判断基準は臨床で通用するか否かを基準とし、治療・支援構造の内容や妥当性を評価する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	作業療法実習Ⅲ			学科名	作業療法学科	講師名	河本敦史/青山信一 溝畑美香/山本剛裕
時間数	45時間					実務経験の有無	作業療法士として身体障害、精神障害、老年期障害領域の病院等で実務経験あり
学年・学期配当		1年次	2年次	3年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		国家試験に向けて、これまで学んだ基礎分野、専門基礎分野、専門分野についての学力の確認					
授業全体の内容の概要		・模擬試験や国家試験の過去問題について、分野ごとに学習を行う。 ・グループワークでアウトプットすることにより、当該分野の内容や機序などについて学習を深化させる。 ・国家試験向けの、準備を行う					
授業修了時の達成課題（到達目標）		グループワークにおいて、当該問題に関して機序や内容を説明することができる。国家試験合格に必要な知識を獲得する					
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義	身体障害領域の解説				
	2	講義	身体障害領域の解説				
	3	実習	資料作成（身体障害）				
	4	実習	資料作成（身体障害）				
	5	演習	グループワーク（身体障害）				
	6	演習	グループワーク（身体障害）				
	7	演習	グループワーク・発表（身体障害）				
	8	演習	グループワーク・発表（身体障害）				
	9	講義	精神障害領域の解説				
	10	講義	精神障害領域の解説				
	11	実習	資料作成（精神障害）				
	12	実習	資料作成（精神障害）				
	13	演習	グループワーク（精神障害）				
	14	演習	グループワーク（精神障害）				
	15	演習	グループワーク・発表（精神障害）				
	16	演習	グループワーク・発表（老年期障害）				
	17	講義	老年期障害領域の解説				
	18	講義	老年期障害領域の解説				
	19	実習	資料作成（老年期障害）				
	20	実習	資料作成（老年期障害）				
	21	演習	グループワーク（老年期障害）				
	22	演習	グループワーク・発表（老年期障害）				
	23	演習	国家試験準備（オリエンテーション）				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・ 無しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		なし					
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、学生の理解を徹底する。成績評価は、終講試験をもって判定する。終講試験は、筆記テストを実施する。					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	作業療法評価学演習		学科名	作業療法学科	講師名	河本 敦史 山本 剛裕		
時間数	45時間				実務経験の有無	作業療法士として急性期病院および重度認知症患者ディケアにて実務経験あり		
学年・学期配当			1 年次	2 年次	3年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			臨床で作業療法士として職務を果たす上での、基礎知識や応用技術の再確認、総まとめを行う。					
授業全体の内容の概要			社会や臨床でのマナーの復習、作業療法評価を行う上での基礎知識や応用技術を学び、卒業後臨床で働くイメージ作りを行う。					
授業修了時の達成課題（到達目標）			臨床実習で得た知見にも基づき、評価の見通しを立て、実施計画を立案することができる。基礎から応用までの知識の見直しが出来る。また、臨床で働く卒業生の話を聴き、接遇を見直すことで、就職活動や社会で働くこと、作業療法士として臨床に立つイメージを作る。					
指導計画	回	形態	内 容					
	1	演習	解剖学①					
	2	演習	解剖学②					
	3	演習	就職活動や社会人としての接遇（卒業生来校）					
	4	演習	就職活動や社会人としての接遇（卒業生来校）					
	5	講義	作業療法評価（カルテからの情報収集，多職種からの情報収集）					
	6	講義	作業療法評価（挨拶，作業療法の紹介，薬の基礎知識）					
	7	講義	作業療法評価（社会的状況の評価,物理的・制度的環境，家族，経済状況など）					
	8	講義	作業療法評価（検査，測定 ROM,MMTなど）					
	9	講義	作業療法評価（検査，測定 ROM,MMTなど）					
	10	講義	作業療法評価（ADL評価）					
	11	講義	作業療法評価（高次脳機能障害）					
	12	講義	作業療法評価（高次脳機能障害）					
	13	講義	作業療法評価（整形外科領域 背損，骨折など）					
	14	講義	作業療法評価（整形外科領域 背損，骨折など）					
	15	講義	作業療法評価（心理面）					
	16	講義	作業療法評価（発達領域 発達段階における評価）					
	17	講義	作業療法評価（発達領域 発達段階における評価）					
	18	講義	作業療法評価（ICF）					
	19	講義	作業療法評価（MTDLP）					
	20	講義	作業療法評価（MTDLP）					
	21	講義	作業療法評価（問題点，利点の抽出方法）					
	22	講義	作業療法評価（目標の立て方）					
	23	講義	作業療法評価（評価を作業療法プログラムに活かす方法）					
				原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等			資料を適宜配布します。 参考図書：クエスチョン・バンク作業療法士 国家試験問題解説 専門問題（メディックメディア）					
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、学生の理解を徹底する。成績評価は、期末試験をもって判定する。期末テストは、筆記テストを実施する。尚授業内容の予定を変更する可能性がある。					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床医学演習		学科名	作業療法学科	講師名	河本敦史/青山信一 溝畑美香/山本剛裕		
時間数	60時間				実務経験の有無	作業療法士として身体障害、精神障害、老年期障害領域の病院等で実務経験あり		
学年・学期配当			1 年次	2 年次	3年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			臨床実習報告会での発表、他学生の発表を聴講し、作業療法の治療基礎の理解を深める 国家試験の合格に向けて、総合的な知識を身に付ける					
授業全体の 内容の概要			臨床実習報告会での発表、聴講 就職セミナー参加 国家試験対策の講義					
授業修了時の 達成課題 （到達目標）			臨床実習報告会での発表、他学生の発表を聴講し、作業療法の治療基礎を理解できる 就職活動の基本的な流れを理解する 国家試験合格に必要な知識を獲得する					
指導計画	回	形態	内 容					
	1	講義	オリエンテーション					
	2	演習	臨床実習Ⅲ 報告会					
	3	演習	臨床実習Ⅲ 報告会					
	4	演習	臨床実習Ⅲ 報告会					
	5	講義	就職セミナー（調整中）					
	6	演習	臨床実習Ⅳ 報告会					
	7	演習	臨床実習Ⅳ 報告会					
	8	演習	臨床実習Ⅳ 報告会					
	9	講義/演習	身体障害（背髄損傷①）					
	10	講義/演習	身体障害（背髄損傷②）					
	11	講義/演習	身体障害（骨折・切断①）					
	12	講義/演習	身体障害（骨折・切断②）					
	13	講義/演習	身体障害（義肢装具）					
	14	講義/演習	精神障害（統合失調症①）					
	15	講義/演習	精神障害（統合失調症②）					
	16	講義/演習	精神障害（うつ病・双極性障害①）					
	17	講義/演習	精神障害（うつ病・双極性障害②）					
	18	講義/演習	精神障害（パーソナリティ障害①）					
	19	講義/演習	精神障害（パーソナリティ障害②）					
	20	講義/演習	精神障害（アルコール依存症）					
	21	講義/演習	精神障害（薬物依存症）					

指導計画	22	講義/演習	発達障害（自閉症スペクトラム障害）
	23	講義/演習	発達障害（注意欠陥多動性障害）
	24	講義/演習	発達障害（てんかん）
	25	講義/演習	老年期障害（脳血管障害①）
	26	講義/演習	老年期障害（脳血管障害②）
	27	講義/演習	老年期障害（脳血管障害③）
	28	講義/演習	老年期障害（アルツハイマー型認知症）
	29	講義/演習	老年期障害（脳血管性認知症）
	30	講義/演習	老年期障害（Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症）
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。
テキスト・参考図書等			国家試験対策資料を適宜配布します
評価方法			成績は国家試験対策講義/演習分の筆記試験で算定します。

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅲ （総合臨床実習）		学科名	作業療法学科	講師名	河本敦史/青山信一 溝畑美香/山本剛裕
時間数	360時間				実務経験の有無	作業療法士として身体障害、精神障害、老年期障害領域の病院等にて実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	3年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		実際の症例に対して作業療法評価から治療・介入・支援までの一貫した業務を適切に実施できるようになる				
授業全体の 内容の概要		臨床実習指導者の監視の下、実際の症例に対して適切な作業療法評価、治療・介入・支援を行う。また、カルテ等記録物の作成、他職種との連携のための連絡・報告も含まれる。				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		①実習前に設定した自己目標、課題を達成できる。②疾患や障害ごとに標準的な作業療法の進め方が説明できる。③作業療法の介入についてオリエンテーション・説明ができる。④リスク管理を行いながら治療・支援を実施できる。⑤日常生活動作練習や退院時指導が行える。⑥他職種との連携を踏まえて、作業療法が果たすべき役割を説明できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1～18回	実習	総合臨床実習			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
	テキスト・参考図書等		テキスト：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド（金芳堂） 参考図書：PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド（医学書院） 諸注意は配布する「臨床実習の手引き」を参照			
評価方法		実習指導者の評価と出席状況、実習後に課す課題の提出と内容等によって総合的に判断する				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅳ （総合臨床実習）		学科名	作業療法学科		講師名	河本敦史/青山信一 溝畑美香/山本剛裕	
時間数	360時間					実務経験の有無	作業療法士として身体障害、精神障害、老年期障害領域の病院等にて実務経験あり	
学年・学期配当			1 年次 2 年次 3年次			前期 後期 通期		
目的・ねらい			実際の症例に対して作業療法評価から治療・介入・支援までの一貫した業務を適切に実施できるようになる					
授業全体の内容の概要			臨床実習指導者の監視の下、実際の症例に対して適切な作業療法評価、治療・介入・支援を行う。また、カルテ等記録物の作成、他職種との連携のための連絡・報告も含まれる。					
授業修了時の達成課題（到達目標）			①実習前に設定した自己目標、課題を達成できる。②疾患や障害ごとに標準的な作業療法の進め方が説明できる。③作業療法の介入についてオリエンテーション・説明ができる。④リスク管理を行いながら治療・支援を実施できる。⑤日常生活動作練習や退院時指導が行える。⑥他職種との連携を踏まえて、作業療法が果たすべき役割を説明できる。					
指導計画	回	形態	内 容					
	1～18回	実習	総合臨床実習					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無					
	テキスト・参考図書等			テキスト：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド（金芳堂） 参考図書：PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド（医学書院） 諸注意は配布する「臨床実習の手引き」を参照				
評価方法			実習指導者の評価と出席状況、実習後に課す課題の提出と内容等によって総合的に判断する					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅴ （訪問または通所リハ実習）			学科名	作業療法学科	講師名	河本敦史/青山信一 溝畑美香/山本剛裕
時間数	90時間					実務経験の有無	作業療法士として身体障害、精神障害、老年期障害領域の病院等にて実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	3年次		前期	後期 通期
目的・ねらい		地域作業療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解することができる。					
授業全体の 内容の概要		臨床実習指導者の監視の下、地域包括ケアシステム(特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)における作業療法場面を経験する					
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		①通所リハビリテーション利用者(個別、集団)に対する作業療法を理解する。②通所リハビリテーション利用者に対する作業療法の一部を経験する。③訪問リハビリテーション利用者に対する作業療法を理解する。④訪問リハビリテーション利用者に対する作業療法の一部を経験する。⑤ケアプランの立案過程を理解する。					
指導計画	回	形態	内 容				
	1~45	実習	地域臨床実習				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
	テキスト・参考図書等		テキスト：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド（金芳堂） 参考図書：PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド（医学書院） 諸注意は配布する「臨床実習の手引き」を参照				
評価方法		実習指導者の評価と出席状況、実習後に課す課題の提出と内容等によって総合的に判断する					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）